天然物化学分野

論文

A 欧文

A-a

- 1. Ogawa S, Matsuo Y, Tanaka T, Yazaki Y:. (2018). Utilization of Flavonoid Compounds from Bark and Wood. III. Application in Health Foods. Molecules 23: 1860, https://doi.org/10.3390/molecules23081860 2018. (IF: 3.098)
- Saito Y, Shiosaki Y, Fujiwara M, Mihara K, Nakamizo H, Otose K, Okamoto Y, Nakashima K, Hanai R, Kuroda C, Gong X, Matsuo Y, Tanaka T, Tori M. (2018). Eremophilanes from Ligularia hookeri collected in China and structural revision of 3β-acyloxyfuranoeremophilan-15,6-olide. Chem Pharm Bull 66: 668-673, 2018. (IF: 1.258)

A-b

1. Tanaka T, Matsuo Y, Saito Y: (2018). Solubility of tannins and preparation of Oil-soluble derivatives. J Oloeo Sci, 67:1179-1187, 2018. (IF: 1.108)

B 邦文

B-a

1. 田中一成, 湯浅正洋, 山本咲暁子, 大曲勝久, 宮田裕次, 田中隆, 玉屋圭, 吉野豊, 小野博之, 丸勇史, 山村春男: (2018). ビワ葉と緑茶三番茶葉を混合揉捻して製造した発酵茶葉長期摂取の内臓脂肪低減効果―ランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間比較法―. 薬理と治療, 46: 539-547, 2018.

学会発表数

A — a	A-b		ъ.	B-b	
A-a	シンポジウム	学会	B — a	シンポジウム	学会
0	0	5	1	7	12

社会活動

氏名·職	委 員 会 等 名	関係機関名
田中 隆・教授	理事・評議員	日本生薬学会
田中 隆・教授	関西支部委員	日本生薬学会

競争的研究資金獲得状況(共同研究を含む)

氏名•職	資 金 提 供 元	代表・分担	研 究 題 目
田中隆・教授	日本学術振興会·学術研究助成基金助 成金	代表	基盤研究(C)植物ポリフェノールの非酵素的酸化還元不均化機構の化学的解明と普遍性の検証
齋藤義紀・准教 授	日本学術振興会·学術研究助成基金助 成金	代表	若手研究(B) NMR を用いたメタボローム 解析による植物二次代謝の種内多様性誘導 因子の解明
松尾洋介・助教	日本学術振興会·学術研究助成基金助 成金	代表	基盤研究(C) 紅茶ポリフェノール生成におけるカテキン類の立体選択的二量化機構の解明

特許

氏名・職	特 許 権 名 称	出願年月日	取得年月日	番号
田中 隆・教授	新規抗白血病細胞剤	公開:		特開 2001-2226276
ほか		2001年		
		8月21日		

用中 降・数は ほか プロアントシアニジン含有物の製造方法 (正か) 公開: 2003 年 11月6日 201 年 4月2日 2003 年 2003 年 11月6日 2003 年 2003 年 11月6日 WO 2003/090770 田中 隆・教授 はか プロアントシアニジン含含有物の製造方法 (正か) 公開: 2003 年 11月6日 2010 年 10月13 日 WO 2003/091237 田中 隆・教授 はか 茶の原料集とどび集め様捻却工による発酵素 2006年 27月2日 山巌: 2006年 8月2 日 2010 年 10月13 日 WO 2006/013866 田中 隆・教授 はか 本経権に具抑制用組成物および立れを含有す 2007年 2月1日 2007年 2月1日 2010 年 6月11日 特間 2007-231009 田中 隆・教授 はか 建か 株土鉱物系複合材料とその製造方法 (まか) 2006年 6月27日 特間 2007-231009 2007年 2月1日 特間 2007-231009 田中 隆・教授 はか まと敷養 (まか) 大学体系業・発酵素薬油出物および飲食品 (まか) 2006年 6月27日 特間 2007-231009 田中 隆・教授 (ほか) 大学が下と存合物の神経和設立び依ま品 (まか) 2006年 6月27日 5月31日 特間 2007-221097 田中 隆・教授 (ほか) 大学に下を含物の神経和温波を密 (正か) 2006年 6月31日 2006年 6月31日 5月31日 中区のののの32684 田中 隆・教授 (ほか) 大学に下を含物の神経和温波を密 (ほか) 2008年 8月31日 2010年 6月31日 2010年 6月31日 4月21日 11月25日 6月23日 (中国ののの202800) 2013年 6月23日 4月21日 11月25日 11月25日 11月25日 11月25日 2013年 11月25日 2013年 11月26日						
田中 隆・教授	田中	隆•教授	テアフラビン類の製造方法			特開 2002-095415
田中 隆・敖辰		ほか	4	,		
田中 隆・教授 だか プロアントシアニジン高含有物の製造方法 2003 年 11月6日 田中 隆・教授 だか 2003年 11月6日 田中 隆・教授 企する組成物 2005年 2010年 10月13日 2007年 10月13日 2007年 10月13日 2007年 2010年 2011日 2007年 2月1日 2007年 2010年 2007年 2月1日 2007年 2007年 2007年 3月17日 3007年 3月17日 3007年 3				4月2日		
田中 隆・教授	田中	隆・教授	プロアントシアニジン含有物の製造方法			WO 2003/090770
田中 隆・教授		ほか	7	2003年		
日中 隆・教授 発酵来薬、発酵素薬油出物・血糖値上昇抑制 日中 隆・教授 発酵来薬、発酵素薬用出物・血糖値上昇抑制 日中 隆・教授 日中 隆・教授 発酵素素、発酵素素油出物・血糖値上昇抑制 日野 全の6年 1月 1日 1月 2010年 特開 2007-22109 特別 2007-22109 対別 2007年 2月 1日 特別 2007-22109 対別 2007年 2月 1日 特別 2007-22109 特別 2007-22109 対別 2007年 2月 1日 特別 2007-22109 対別 2007年 2月 1日 特別 2007-22109 対別 2006年 4月 2007年 2月 1日 特別 2007-22109 対別 2006年 6月 27日 特別 2007-22109 対別 2006年 6月 27日 特別 2008-032684 日中 隆・教授 経財・大学・アントンアニジンオリゴマーの製造方法 日本 2008年 8月 31日 2007年 2月 1日 6月 23日 (中国) 2007年 2010年 6月 23日 (中国) 2007年 1月 25日 11月 25日 特別 2009-221158 11月 25日 特別 2009-221158 11月 25日 特別 2009-221158 11月 25日 特別 2009-22139 11月 25日 特別 2009-242337 日中 隆・教授 オリゴメリックプロシアニジン (OPC) の 2007年 9月 27日 特別 2009-001531 平成 21年 1月 8 日 特別 2009-01531 平成 21年 1月 8 日 特別 2009-01531 平成 21年 1月 8 日 特別 2009-01531 平成 21年 1月 8 日 特別 2010-189321 2月 18 日 年 教授 1月 25日 特別 2010-189321 2月 18 日 日中 隆・教授 1月 21日 1月 21日 特別 2010-189321 2月 18 日 1月 21日 1月				11月6日		
田中 隆・教授	田中	隆•教授	プロアントシアニジン高含有物の製造方法	公開:		WO 2003/091237
田中 隆・教授		ほか	7	2003年		
田中 隆・教授 (ほか)				11月6日		
世中 隆・教授	田中	隆·教授		出願:	2010年	WO2006/013866
田中 隆・教授		ほか		2005年	10月13日	
田中 隆・教授			とする組成物	8月2日		
田中 隆・教授	田中	隆•教授	発酵茶	2006年	2010年	特開 2007-202481
日中 隆・教授 操作 操作 操作 操作 操作 操作 操作 操		ほカ	<u> </u>	2月2日	6月11日	
田中 隆・教授	田中	隆·教授	血糖値上昇抑制用組成物およびこれを含有す	2007年		特開 2007-231009
田中 隆・教授		ほか	る飲食品	2月1日		
田中 隆・教授	田中	隆·教授	発酵茶葉、発酵茶葉抽出物および飲食品	2007年		特開 2007-228964
田中 隆・教授		ほカ		2月1日		
田中 隆・教授	田中	隆・教授	粘土鉱物系複合材料とその製造方法	2006年		特開 2007-291097
日中 隆・教授 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日				3月31日		,,,,,
日中 隆・教授 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	田中	隆•教授	高速液体クロマトグラフィーによる糖及び類	2006年		特開 2008-032684
田中 隆・教授 (ほか)			AT THE STATE OF TH	r		141/13 2000 002001
田中 隆・教授 接膝茶葉、発酵茶葉抽出物、血糖値上昇抑制 2007年 2010年 (中国) 中国出願番号: 2月1日 6月23日 (中国) 中国出願番号: 2月1日 6月23日 (中国) 中国出願番号: 200710003049.2 中性脂肪低下作用促進剤および体脂肪抑制剤 2008年 3月17日 特開 2009-221158 日中 隆・教授 松尾洋介・助教 相当なり カプロシアニジン (OPC)の 2007年 9月27日 WO 2008/038726 日中 隆・教授 はか お土鉱物系抗微生物材料 特開 2009-242337 日中 隆・教授 ほか お上鉱物系抗微生物材料 特開 2009-001531 特別 2009-001531 日中 隆・教授 ほか お上鉱物系抗微生物材料 学成 21年 1月8日 日中 隆・教授 ほか お上鉱物系抗微生物材料 学院 21年 1月8日 日中 隆・教授 ほか お上鉱物系抗微生物材料 学成 21年 1月8日 特別 2009-001531 特別 2010-189321 日中 隆・教授 ほか おり コレステロール低減剤 平成 21年 2月18日 特別 2011-44830 特別 2012-180309	田中	降• 教授	プロアントシアニジンオリゴマーの製造方法			WO 2006/090830
田中 隆・教授 (日か) 発酵茶葉、発酵茶葉抽出物、血糖値上昇抑制 用組成物および飲食品 2007年 2月1日 2010年 6月23日 (中国) 中国出願番号: 200710003049.2 田中 隆・教授 (日本) 中性脂肪低下作用促進剤および体脂肪抑制剤 (日本) 2008年 3月17日 2013年 11月25日 特開 2009-221158 田中 隆・教授 (日本) おりゴメリックプロシアニジン (OPC) の 測定方法 2007年 9月27日 WO 2008/038726 田中 隆・教授 (日か) 粘土鉱物系抗微生物材料 特開 2009-242337 田中 隆・教授 (日か) 株式リフェノールオリゴマー 公開: 2月18日 特開 2010-189321 田中 隆・教授 (日か) コレステロール低減剤 平成 21年 2月18日 特開 2010-189321 田中 隆・教授 (日か) (日か) 肝障害予防剤 公開: 2月18日 特願 2011-44830 特開 2012-180309 松尾洋介・助教 (日か) 日か 特願 2011-44830 特開 2012-180309	PH 1					6 2000, 00 0000
田中 隆・教授		, , ,				
田中 隆・教授 および飲食品 2月1日 6月23日 (中国) 200710003049.2 田中 隆・教授 おり カリゴメリックプロシアニジン(OPC)の 測定方法 7・助教 お上鉱物系抗微生物材料 2007年 9月27日 特開 2009-221158 WO 2008/038726 日中 隆・教授 ほか おおい カリガン おおい カリガン おいま かい カリガン カリゴメリックプロシアニジン(OPC)の 別定方法 9月27日 WO 2008/038726 日中 隆・教授 おり カリゴメリックプロシアニジン(OPC)の 2007年 9月27日 特開 2009-242337 日中 隆・教授 おり カリゴメリックプロシアニジン(OPC)の 2007年 9月27日 特開 2009-242337 日中 隆・教授 おり カリゴメリックプロシアニジン(OPC)の 2007年 9月27日 特別 2009-001531 中 隆・教授 おり カリガン カリゴマー 公開: 平成 21年 1月8日 中 隆・教授 ほか ア成 21年 2月18日 特別 2010-189321 日中 隆・教授 日中 隆・教授 日本 2月18日 特別 2011-44830 特別 2012-180309 特別 2012-180309	田中	降• 教授	辛醛苯醛 辛醛苯醛抽出物 而糖值上显抑制		2010年	中国出願悉号:
田中 隆・教授 (まか)中性脂肪低下作用促進剤および体脂肪抑制剤 (まか)2008 年 3 月 17 日特開 2009-221158田中 隆・教授 (ほか)脂溶性カテキンの製造方法2008 年 10 月 21 日 11 月 25 日2013 年 11 月 25 日特開 2010-100540田中 隆・教授 (ほか)オリゴメリックプロシアニジン (OPC) の 測定方法2007 年 9 月 27 日WO 2008/038726田中 隆・教授 (ほか)粘土鉱物系抗微生物材料特開 2009-242337田中 隆・教授 (ほか)柿ポリフェノールオリゴマー公開: 平成 21 年 1 月 8 日特開 2009-001531田中 隆・教授 (ほか)コレステロール低減剤平成 21 年 2 月 18 日特開 2010-189321田中 隆・教授 松尾洋介・助教 (ほか)肝障害予防剤公開: 平成 24 年 9 月 20 日特願 2011-44830 特開 2012-180309			H /H D // 2 - 2 - 400 // A H			
田中 隆・教授 田中 隆・教授 田中 隆・教授 田中 隆・教授 日中 日本教授 日中 日本教授 日中 日本教授 日中 日本教授 日中 日本教授 日本 日本 日		10.17		27,11		
田中 隆・教授	田中	隆・教授	中性脂肪低下作用促進剤および体脂肪抑制剤	2008年		特開 2009-221158
松尾洋介・助教 10月21日 11月25日 田中隆・教授 ほか 調定方法 オリゴメリックプロシアニジン (OPC) の 調定方法 2007年 9月27日 WO 2008/038726 田中隆・教授 ほか ほか ほか ほか ほか 日中隆・教授 ほか ほか ほか ほか ほか ほか ほか ほか と教授 ほか ほか ほか ほか ほか ほか り 1月8日 本元 21年 1月8日 特開 2009-001531 田中隆・教授 ほか ア成 21年 2月18日 サ開 2010-189321 田中隆・教授 松尾洋介・助教 ほか ほか ほか り 月 20日 サ原 2011-44830 特別 2012-180309		ほか	7	3月17日		
松尾洋介・助教 10月21日 11月25日 田中隆・教授 ほか 調定方法 オリゴメリックプロシアニジン (OPC) の 調定方法 2007年 9月27日 WO 2008/038726 田中隆・教授 ほか ほか ほか ほか ほか 日中隆・教授 ほか ほか ほか ほか ほか ほか ほか ほか と教授 ほか ほか ほか ほか ほか ほか り 1月8日 本元 21年 1月8日 特開 2009-001531 田中隆・教授 ほか ア成 21年 2月18日 サ開 2010-189321 田中隆・教授 松尾洋介・助教 ほか ほか ほか り 月 20日 サ原 2011-44830 特別 2012-180309	田中	隆・教授	脂溶性カテキンの製造方法	2008年	2013年	特開 2010-100540
田中 隆・教授 おリゴメリックプロシアニジン(OPC)の 測定方法 9月 27 日 WO 2008/038726 田中 隆・教授 括土鉱物系抗微生物材料 特開 2009-242337 田中 隆・教授 おポリフェノールオリゴマー 公開: 平成 21 年 1月 8 日 中 隆・教授 はか 2 リステロール低減剤 平成 21 年 2月 18 日 特開 2010-189321 田中 隆・教授 と表が おり エンステロール低減剤 公開: 特願 2011-44830 特別 2012-180309 特別 2012-180309	' ' '					
ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン 大学院 2009 - 242337 大学院 201年 大学院 201年 ファイン・ルイリゴマー 公開: 平成 21年 ファイン・ル低減剤 平成 21年 フィアロール低減剤 ア成 21年 フィアロール低減剤 フィアロール低減剤 ファイン・リン・ステロール低減剤 ファイン・リン・ステロール低減剤 フィアロール低減剤 フィアロール低減剤 大学院 2010-189321 大学院 2011-44830 大学院 24年 大学院 2012-180309 大学院 24年 フィアロール低減剤 ファイン・リン・ステロール低減剤 フィアロール低減剤 フィアロール低減剤 フィアロール低減剤 フィアロール低減剤 フィアロール低減剤 フィアロール低減剤 大学院 2010-189321 大学院 2011-44830 大学院 2012-180309 大学院 2012-180309 フィアロールのようによった。 フィアロールのようによった。 フィアロールのようによった。 フィアロールのようによった。 フィアロールのようによった。 フィアロールのようによった。 フィアロールのようによった。 フィアロール・フィアロールのようによった。 フィアロールのようによった。 フィアロールののようによった。 フィアロールののようによった。 フィアロールののようによった。 フィアロールののようによった。 フィアロールののようによっ			オリゴメリックプロシアニジン (OPC) の			WO 2008/038726
田中 隆・教授 (ほか)粘土鉱物系抗微生物材料特開 2009-242337田中 隆・教授 (ほか)柿ポリフェノールオリゴマー 平成 21 年 1月8日特開 2009-001531田中 隆・教授 (ほか)コレステロール低減剤平成 21 年 2月18日特開 2010-189321田中 隆・教授 松尾洋介・助教 (ほか)肝障害予防剤公開: 平成 24 年 9月 20 日特願 2011-44830 特開 2012-180309			Strate L. S.L.	r		200.000,20
ほか位表が公開: 平成21年 1月8日特開 2009-001531田中 隆・教授 ほかコレステロール低減剤平成21年 2月18日特開 2010-189321田中 隆・教授 松尾洋介・助教 ほか肝障害予防剤公開: 平成24年 9月20日特願 2011-44830 特開 2012-180309	田中			2 / 2 / 17		特單 2009-242337
田中 隆・教授 (ほか)柿ポリフェノールオリゴマー 平成 21 年 1月8日特開 2009-001531田中 隆・教授 (ほか)コレステロール低減剤平成 21 年 2月18日特開 2010-189321田中 隆・教授 松尾洋介・助教 (ほか)肝障害予防剤公開: 平成 24 年 9月 20 日特願 2011-44830 特開 2012-180309	H1.1.					14 PH 2007 242331
ほか 平成 21 年 1月8日 田中隆・教授 ほか コレステロール低減剤 平成 21 年 2月18日 特開 2010-189321 田中隆・教授 松尾洋介・助教 ほか 肝障害予防剤 公開: 平成 24 年 9月 20 日 特願 2011-44830 特開 2012-180309	田山			公盟·		特盟 2009—001531
田中 隆・教授 ほか コレステロール低減剤 平成 21 年 2月 18 日 特開 2010-189321 田中 隆・教授 松尾洋介・助教 ほか 肝障害予防剤 公開: 特願 2011-44830 特別 2012-180309 日中 隆・教授 日まか 日本 24 年 9月 20 日 特別 2012-180309	шт					ען 2007 און און 2007 און און
田中 隆・教授 はまかコレステロール低減剤平成 21 年 2 月 18 日特開 2010-189321田中 隆・教授 松尾洋介・助教 はか肝障害予防剤公開: 平成 24 年 9 月 20 日特願 2011-44830 特開 2012-180309		1411				
ほか 2月18日 田中隆・教授松尾洋介・助教 肝障害予防剤 公開: 特願 2011-44830 水尾洋介・助教 平成 24 年 特開 2012-180309 り月 20日 9月 20日	шт	咚。 数短	コレステロール低減剤			焙悶 2010 190221
田中 隆・教授 松尾洋介・助教 ほか肝障害予防剤公開: 平成 24 年 9 月 20 日特願 2011-44830 特開 2012-180309	шт					平月間 ZU1U-1093Z1
松尾洋介・助教 (ほか)平成 24 年 9月 20 日特開 2012-180309	ш÷					株商 2011 44820
ほか 9月20日	' ' '		川岸舌 J´ り刀削 			
	松尾行					付用 2012-180309
世中 隆・教授 Water-soluble flavonoid composition, drink, Feb 28, WO 2014-JP55080	m ±					WO 2014 ID55000
	出中	隆・教授	Water-soluble flavonoid composition, drink,	Feb 28,		WO 2014-JP55080

l l		food, pharmaceutical product and cosmetic product, each of which contains same, and method for producing water-soluble flavonoid composition	2014	
田中隆・教		Novel therapeutic agent for Alzheimer's disease containing polyphenol derivative.	2015年 11月6日	WO 2016072522 A1 20160512
田中隆・教	で授 まか	アルツハイマー病治療薬	2015年 11月6日	PCT/JP2015/081417
田中 隆・教	接まか	Method of Producing Proanthocyanidin Oligomer	2019年 1月22日	US 10,183,007 B2

○特筆すべき事項

①当研究室と、長崎県、長崎県立大学、九州大学で共同開発した混合発酵茶をベースとした「びわの葉入りまるごと発酵茶」が、消費者庁により機能性表示食品として認可されました(2018年7月31日)。